

国際海事機関(IMO) 総会 概要

国際海事機関及び総会の概要

- 国際海事機関(International Maritime Organization, IMO)は、海事に関する国際協力を促進するための機関。世銀グループ、IMFと同様、15ある国連専門機関の一つ。
(1958年設立、本部はロンドン(英国)、加盟国171、準加盟3)
- 海運・造船国である日本は、IMOの創設以来継続して理事国を務める等、IMOへの最大の貢献国として条約策定等の議論をリードしている。
- 総会は、同機関の任務を統括する最高決定機関。2年に一度開催。次回は**本年11月23日**から**12月2日**に開催。



国際海事機関本部(ロンドン)

総会の審議事項(主なもの)

- IMOの次期2カ年の予算案についての審議
- IMO事務局長の任命承認(本年6月に実施された事務局長選挙の結果(Lim Ki-tack氏(韓国)当選)の承認)
- 理事会、各委員会の報告の審議
- 理事国選挙
(カテゴリーA(我が国含む主要海運国)10、カテゴリーB(主要荷主国)10、カテゴリーC(その他)20、合計40か国)
我が国はIMO設立以来の理事国。立候補を行ったところであり、各国への支持要請を様々なルートで働きかけている。

総会への対応

- 毎回、各国からは、大臣、副大臣クラスの代表が参加し、一般演説が行われる。
- 我が国は、以下の点からも**ハイレベルの対応が必要**。
我が国が輩出した関水康司事務局長の退任(～今年末)前の最後の総会であること
国際海事賞(International Maritime Prize)を笹川陽平氏(日本財団会長)が受賞すること



第28回総会での野上副大臣の演説の様子(2013年11月)